

「総合的な学習の時間」 と ユニセフ

学校におけるユニセフ活用ガイド



はじめに

ユニセフ（国際連合児童基金）は、世界中すべての子どもたちの健やかな発達を目指して活動する国連機関です。日本の子どもたちにも、ユニセフ学校募金活動などを通じて、その名は親しまれてきました。

平成14年度（高等学校は平成15年度）から本格的に導入される「総合的な学習の時間」は、そのテーマ例に国際理解や福祉を掲げています。これに伴い、ユニセフが新たなかたちで活用される例が増えています。

世界161の国と地域で活動するユニセフは、子どもたちが同じ世代の仲間たちの姿を通じて現在の世界の様子をとらえ、地球市民としてどのように考え、行動したらよいか、という問いにこたえる多くの要素を持っています。

今回、「総合的な学習の時間」にユニセフを活用するにはどのような方法があるか、現場の先生方と一緒に研究会を実施いたしました。本冊子は、その研究会の成果を踏まえて編纂されています。ご協力いただきました先生方にお礼申し上げますとともに、多くの学校でこの冊子をご活用いただき、より自由に幅広くユニセフが役立てられることを願います。

研究会参加者

東京・江戸川区立新堀小学校	渡辺 哲郎	教諭
神奈川・大磯町立国府小学校	水越 正志	教諭
神奈川・藤沢市立湘南台小学校	岩澤 洋子	教諭
東京・杉並区立和泉小学校	伊藤 祥子	教諭
神奈川・小田原市立橘中学校	大坪 禎太	教諭
埼玉・越谷市立武蔵野中学校	須関 知昭	教諭
神奈川・川崎市立川崎総合科学高等学校	川崎 操	教諭
長野・長野県辰野高等学校	有賀 久雄	教諭
東京・（私）帝京中学・高等学校	東海林 啓造	教諭
栃木・栃木県立宇都宮中央女子高等学校	大嶋 里美	講師
神奈川・神奈川県立大和南高等学校	望月 浩明	教諭

（順不同、学校名は平成12年度現在）

目次

1 ユニセフと「総合的な学習の時間」…その接点	2
ユニセフ早わかり	4
2 ユニセフから広がっていくことば	6
3 ユニセフを活用して設定可能な学習テーマ	8
4 ユニセフを活用した活動展開例	10
5 これを活用！ ユニセフ資料案内	30

1 ユニセフと「総合的な学習の時間」—その接点

ユニセフ(国際連合児童基金)の活動は…

- ・世界中すべての子どもの権利を守り、子どもが持って生まれた能力を十分に発揮できる機会を広げることを目指しています。
- ・子どもの生存、保護、発達を確保し、困難な状況や緊急事態下にある子どもたちなど、支援を必要とする子どもに的確な支援を行っています。
- ・国際社会の平和と持続可能な発展を目標としています。

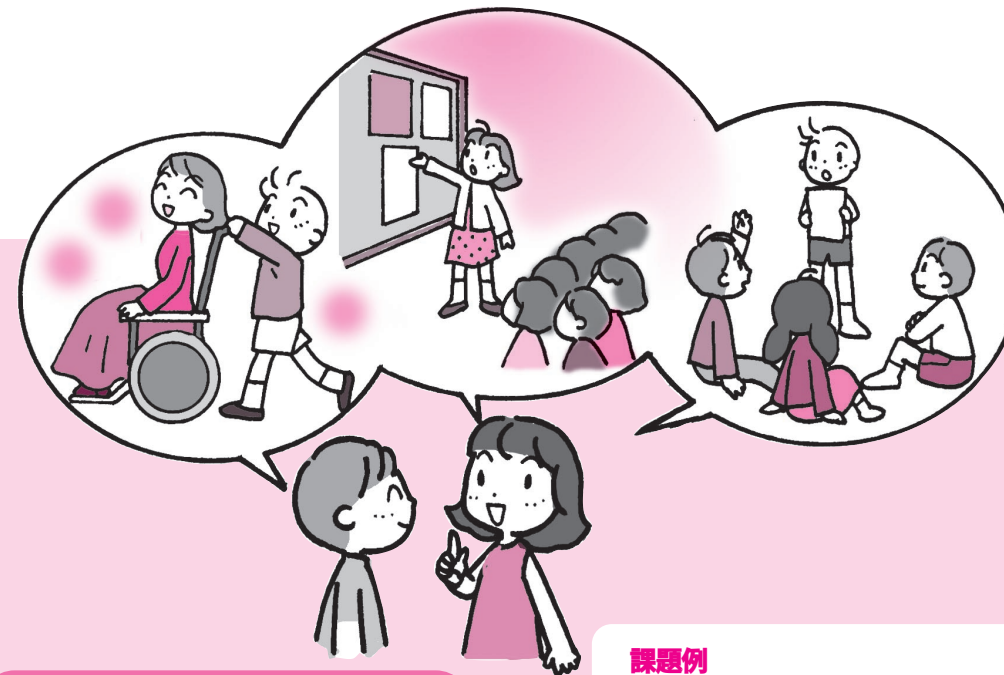
しかし、一朝一夕に解決されない世界の諸問題に対処するためには…

対症療法的な活動だけではなく、将来、こうした問題の解決を託される子どもたちが、互いを尊重し、地球規模で協力してよりよい方向性を見出していける資質を持った人材に育っていくことが必要不可欠

地球市民の育成を

ユニセフの目指す「地球市民の育成」は…

- ◎ 世界の問題に関する知識を得て、それを考察する力を養う。
- ◎ よりよい世界を築く(平和・寛容・他との協力、社会正義、環境保護など)ために、また、さまざまな問題を解決するために必要な思考方法やみずから行動を起こす力を参加型・体験型の学習を通じて養う。
- ◎ 未来に希望を持ち、自分達自身がよりよい未来をつくる原動力だと考え、「参加」する態度を培う。



「総合的な学習の時間」は…

創設の趣旨

- 1 地域や学校の実態等に応じて創意工夫を生かし、特色ある教育活動を展開できる時間を確保する。
- 2 国際化や情報化をはじめ社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成するために、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習をより円滑に実施するための時間を確保する。

課題例

- ① 国際理解、環境、情報、福祉・健康など
- ② 児童・生徒の興味関心に基づく課題
- ③ 地域や学校の特色に応じた課題
- ④ 進路、生き方

重視する活動、学習例

- 自然体験、ボランティアなどの社会体験
- 見学や調査
- 発表や討論
- 問題解決的な学習

「総合的な学習の時間」のねらいは…

- ◎ 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- ◎ 学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。



世界の子どもの状況

- 1年間に1100万人の5歳未満の子ども（1日3万500人、3秒にひとりの割合）が死亡している。死亡原因の多くは予防可能なもの。
- 開発途上国の子どもの3人にひとりとは中・重度の栄養不良。
- 人口の約4分の1が安全な水を手に入れることができない。
- 人口の2分の1近くは、適切な衛生施設（トイレなど）がない。
- 開発途上国の就学年齢児童 1億1000万人以上が未就学。
- 少なくとも6億人の子どもが、1日1米ドル未満の収入しかない家庭で育っている。
- 有害で過酷な労働を強いられている5～14歳の子ども 2億5千万人。
- 過去10年の紛争で命を奪われた子ども 200万人。
- 兵士として使われている子ども、約30万人。
- 1999年に130万人の15歳未満の子どもがHIVウイルスに感染し、新たに毎分6人の割合で25歳未満の若者がこのウイルスに感染している。

ユニセフの使命

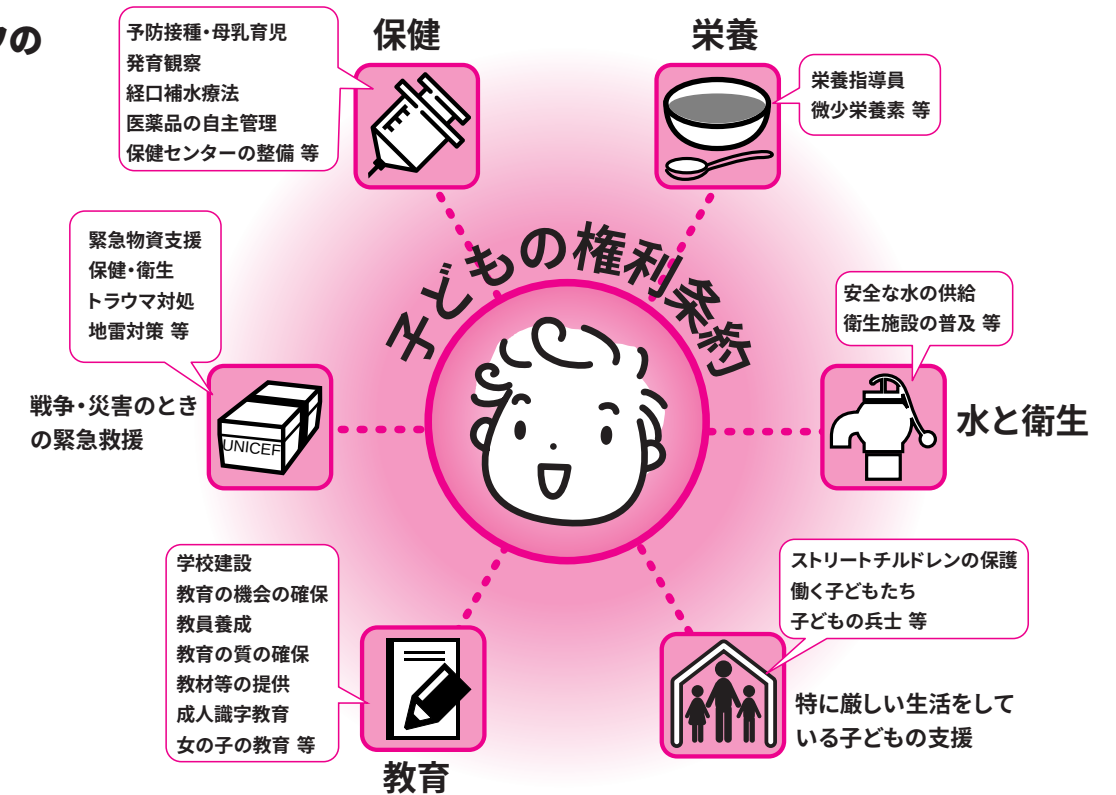
- ユニセフは、子どもの権利を守り、子どもが持って生まれた能力を十分に発揮できる機会を広げるために活動する国際連合の機関です。
- ユニセフは、「子どもの権利条約」に基づいて活動し、この条約が広く子どもに対する行動の基礎となるように努力します。
- ユニセフは、子どもの生存、保護、発達が、人類の進歩にとって不可欠だと考えています。
- ユニセフは、各国の政府などに働きかけ、「子ども最優先」の原則が実現するように支援します。
- ユニセフは、最も困難な状況にある子どもたちが特別の保護を受けられるようにします。
- ユニセフは、緊急事態にすばやく対応して、子どもを守ります。
- ユニセフは、中立の機関で、最も支援を必要としている子どもを優先的に援助します。
- ユニセフは、女性と女の子が男性と平等の権利を得られるように支援します。
- ユニセフは、国際社会の平和と調和のある発展を目指します。



Facing the Challenge

What's UNICEF?

ユニセフの活動



ユニセフの支援基準

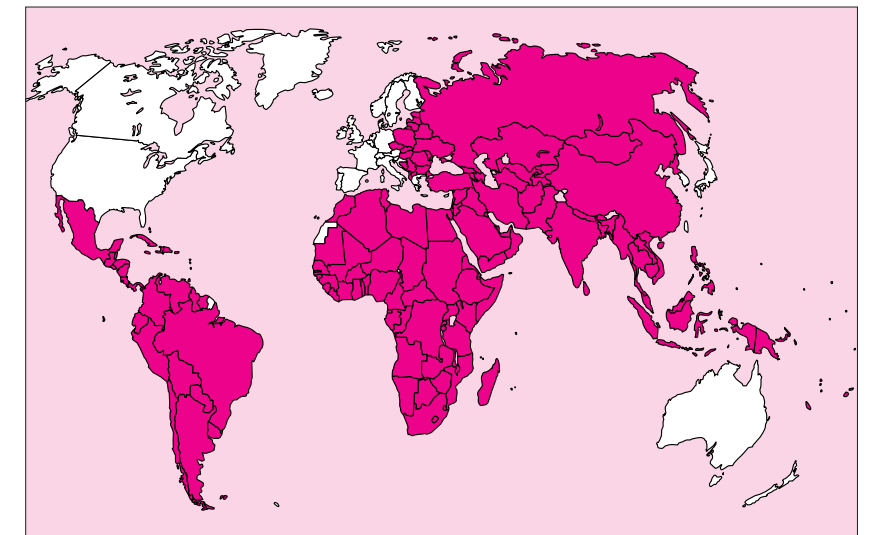
ユニセフは次の3点を支援の判断基準にしています。

- 1 5歳未満児の死亡率
- 2 国民ひとりあたりのGNP
- 3 子どもの人口

ユニセフの特徴

- ・子どものための国連機関
- ・現地の自立を促す開発協力機関
- ・政府・民間との幅広い協力関係
- ・中立性、実行力、強い使命感

ユニセフが活動している国と地域 161



自立を目指した活動

ユニセフは、緊急救援の場合を除き、物資をただ提供するのではなく、住民がみずからの力で子どもたちを健やかに育てられるように手伝うという立場をとっています。

野菜の種・ひよこ・稚魚の提供や、保健や衛生の知識を広めるプロジェクトなどがこれを象徴しています。たとえば右の図は、下痢による脱水症状で命を失う子どもを救うための経口補水療法のやり方を示したものです。このような簡単な知識でもいったん広まれば、物資などを提供し続けなくても、たくさんの子どもの命を守ることができます。

経口補水療法

1 安全な飲み水1リットル
用意（一度沸騰させた水）



2 塩を小さじに半分



3 砂糖を小さじに4はい



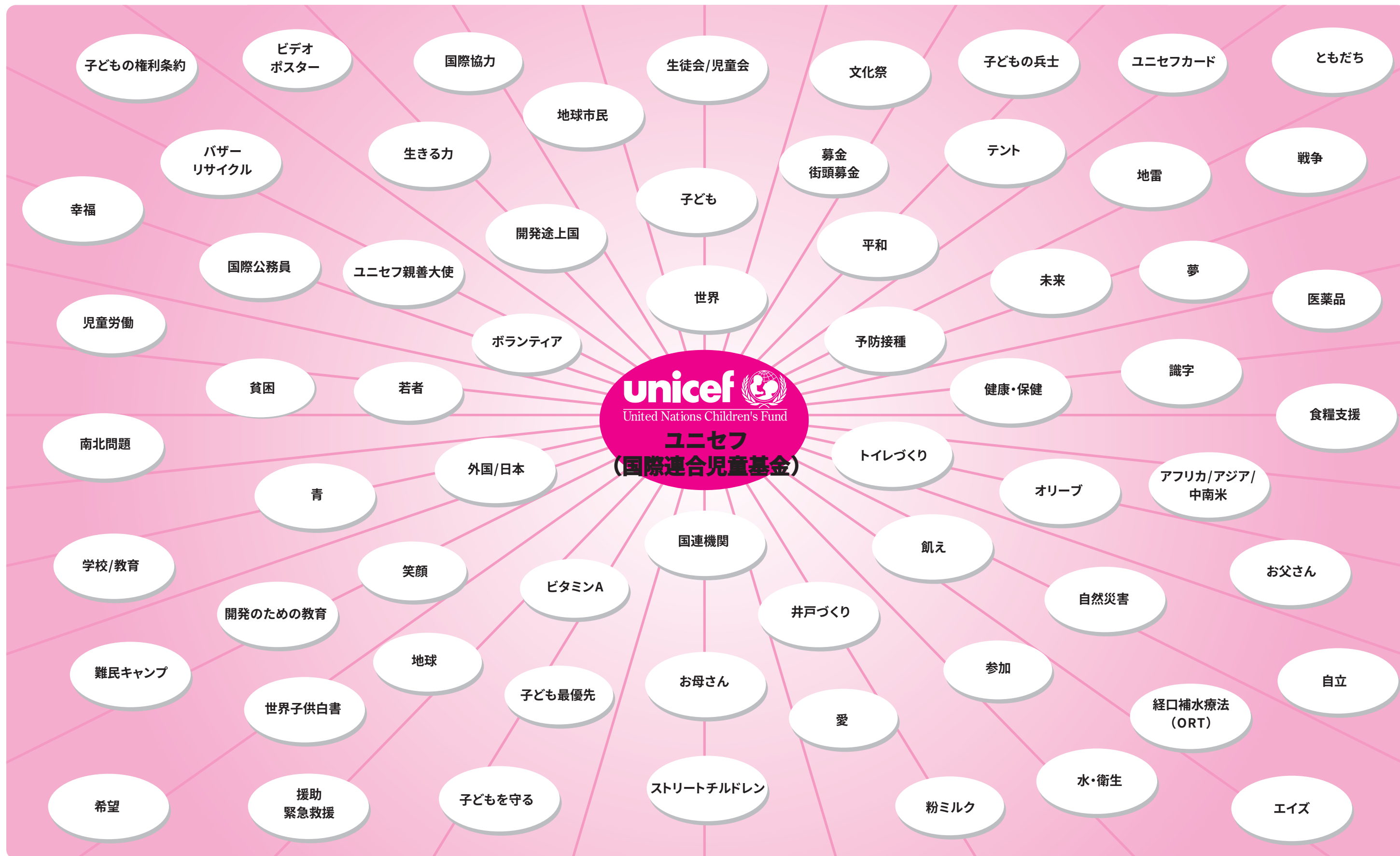
4 ぜんぶをかきまぜて
できた水を脱水症状
の子どもにすこしずつ
飲ませます。



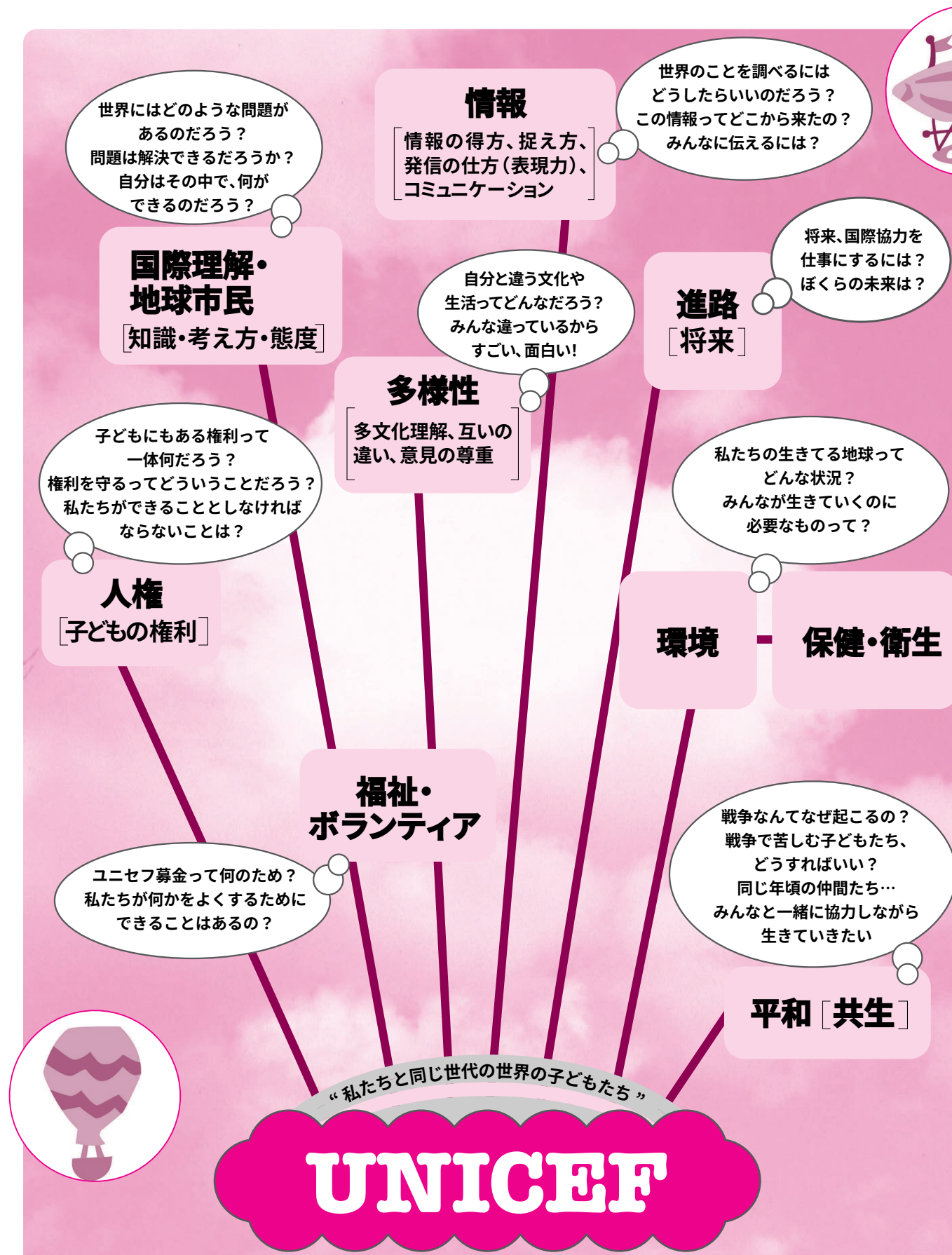
緊急救援時や保健センターの常備用として、どこへでもすぐ使える経口補水塩（ORS）と呼ばれるパッケージも提供されています。



2 ユニセフから広がっていくことば



3 ユニセフを活用して設定可能な学習テーマ



そしてユニセフが提供できる素材は…

■ 現代世界のさまざまな課題と同じ世代の世界の子どもたちについての情報
映像・写真、統計、記事・物語、ホームページ、各種貸し出し教材などユニセフにはたくさんの情報があります。こうした情報源から、さまざまな事実や現状への認識を得るとともに、情報の集め方、情報の理解や分析のしかたなどについても学ぶことができます。

■ 参加型・体験型学習の手法やアクティビティ例
ユニセフが地球市民育成のために提唱している「開発のための教育」は参加型・体験型の教育手法です。ユニセフの情報を合わせて取り入れれば、子どもたちは知識だけでなく、地球市民として必要とされるさまざまな能力を経験的に身に付けていくことができます。(→P12参照)

■ 国連機関の活動や国際協力のありようについての視点
国際機関であるユニセフを通じて国連または国連機関とは世界でどのような存在か、どのような役割を果たしているのか、などを考えることができます。
また、現地でのユニセフの活動のようすについて知ることは、国際協力や開発支援とはどのようなことを意味しているのか、ということを考える視点となります。

■ 実際の協力・行動の場
ユニセフの活動は多くの方からの募金によって支えられています。40年以上にわたって続いているユニセフ学校募金活動は、実際に行動を起こす身近な方法といえるでしょう。街頭募金やユニセフ支援のためのフリーマーケット、リサイクルを行うことも一案です。学んだり考えたりしたことを伝えるさまざまな広報活動も大切です。

■ 人間が生きる上で最低限のニーズや基本的な人権についての資料
ユニセフがその活動の基盤に置いている「子どもの権利条約(児童の権利に関する条約)」は、現在191の国と地域が締結しており、人権や社会正義に対する普遍的な価値観を提示しています。
使い方を工夫すれば、世界の子どもたちの状況を理解するための手段になるほか、人権、権利と責任などを学ぶ効果的な教材となります。



4 ユニセフを活用した活動展開例

「総合的な学習の時間」の課題やテーマの設定、それに対する考え方については、研究会においてもさまざまな意見が出されました。

本書におきましては、それらの意見の中からユニセフの素材を活用しやすいテーマを選びました。活動の流れについては基本的にステップ1～ステップ3の3段階（知る→考える→行動する／課題設定→課題把握→表現活動／課題設定→個別追究→発展）にわけて示されています。

また、ユニセフの資料を主に使用したユニセフ学習から発展させた例や、ユニセフの資料をきっかけとして使用する例など、ひとつのかたちにとらわれずに多様な取り組みのアイデアを取り上げています。各テーマの一部分をヒントに活用したり、各ステップから別方向へ発展させたり、複数のテーマの活動を組み合わせたり、各状況に応じて自由にご活用ください。

活動展開例 培われる資質別区分表

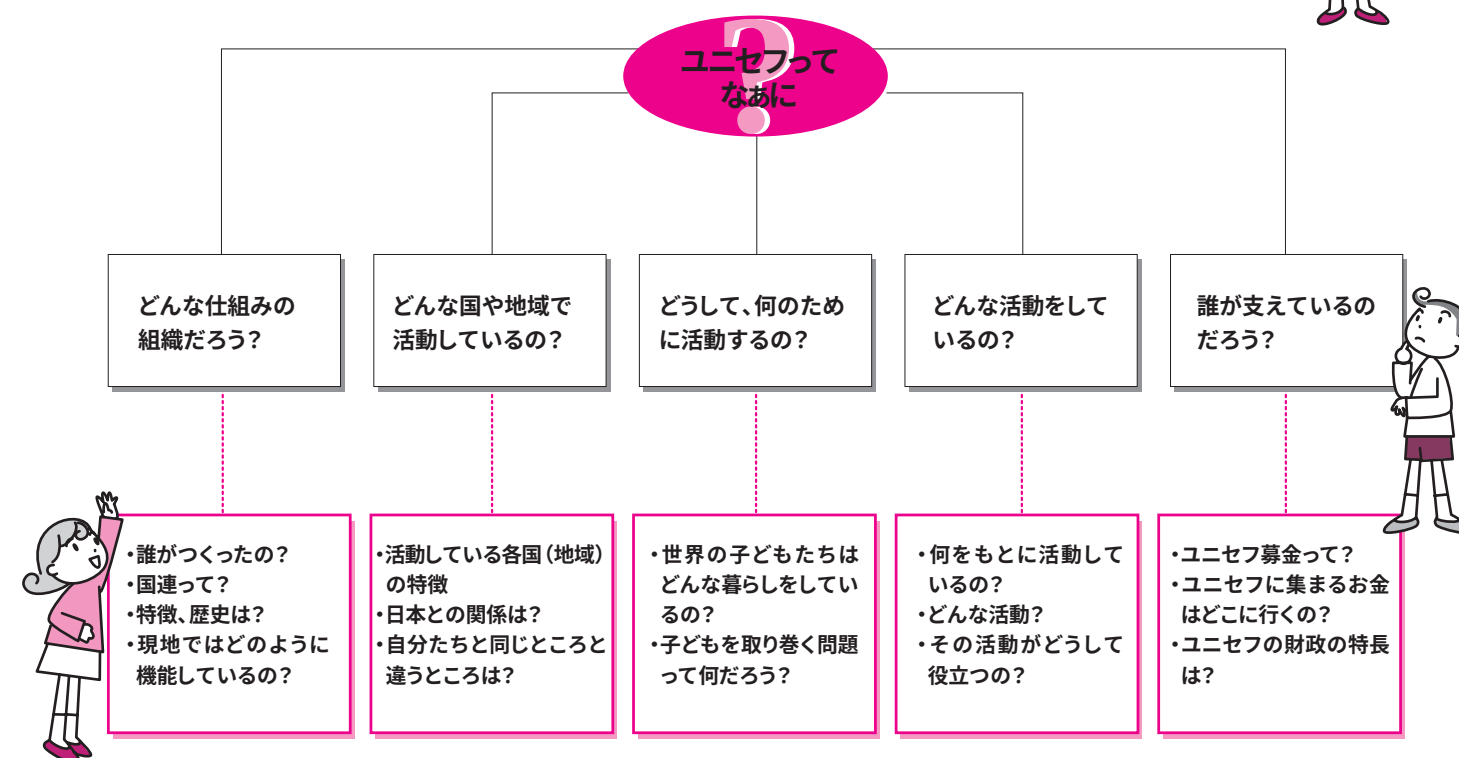
活動展開例	国際理解	環境	福祉・健康	人権	平和・共生	情報	進路・生き方
① ユニセフミュージアムをつくろう (P11)	◎				○	○	
② 人・水・くらし (P15)		◎	○				
③ 5歳を迎えられない子どもたち (子どもの権利) (P16)	○		◎	◎	○		
④ 子どもと教育 (P18)	○		◎	○			
⑤ エイズ～病気の予防と世界の現状 (P19)	○		◎				
⑥ どうしてユニセフ募金？ (P20)	○		○		◎	○	
⑦ 消えゆく世界の森 (P22)	○	◎			○		
⑧ 急速に人口増加する世界 (P23)	○	○			◎		
⑨ 共に生きる世界 (P24)	○			◎	○		○
⑩ 違っていいから素晴らしい (P26)	○			○	◎		
⑪ 将来設計図 (P27)	○						◎
⑫ 写真から考える世界のできごと (P28)	○					◎	

活動展開例

① ユニセフミュージアムをつくろう

STEP-1 課題設定、問題提起

- ユニセフの資料（ビデオ、ポスター、パンフレット 他）を活用して、問題提起をしたり、各自の課題設定（把握）をしたりする。



STEP-2 調べ学習



- 各テーマについてそれぞれ調べ学習、表現活動などを行う。
- 途中経過をグループ内で発表して、学習の微調整や方向修正をする。
- 集団で同じテーマについて学習している場合は、関連テーマでの参加型アクティビティ（P12囲み記事参照）を行ってもよい。

ひとことメモ

調べ学習

それぞれの調べ学習の際には、自分の状況把握や身近なことを調べることが必要もあります。

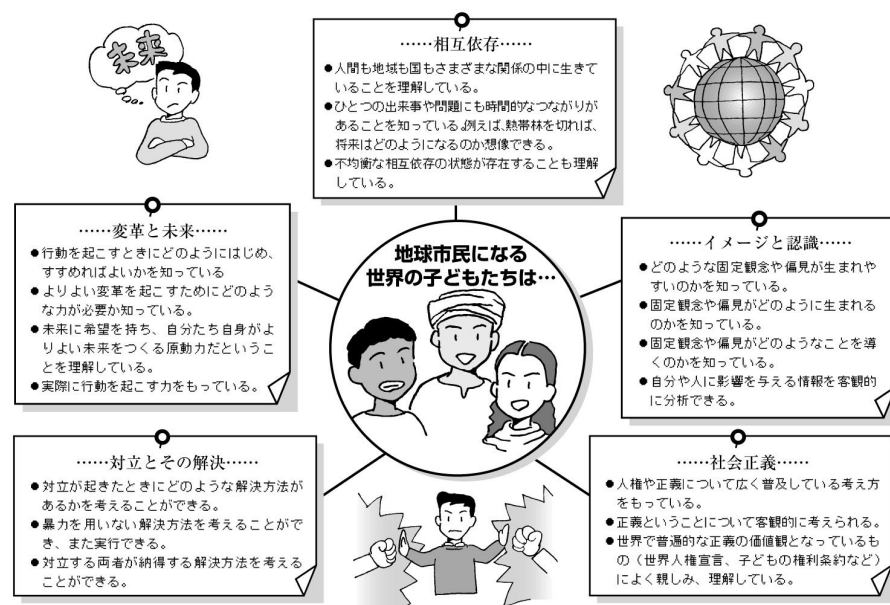
例えば、ユニセフの水と衛生に関する活動について調べるとき、自分たちが使う水はどのようにして手に入るのか、それにはどのような施設や人びとの力は必要か、どれほどのお金がかかっているのか、などを知ることにより、より課題への理解が深まりユニセフの活動の意義についてもわかりやすくなります。

ひとことメモ

ユニセフの「開発のための教育」

ユニセフが提唱している「開発のための教育」は、参加型・体験型のアクティビティなどを通じて、地球市民としての考え方や態度を養うことを目指しています。「開発のための教育」は、地球市民について下のようなコンセプトを提示しています。

これらのコンセプトに基づいたさまざまなアクティビティ例は、当協会発行資料『ユニセフの開発のための教育』に掲載されています。本冊子でもアクティビティを活用した例を多数取り上げておりますので、ぜひ一読ください。（→ 巻末資料案内参照）



活用! アクティビティ

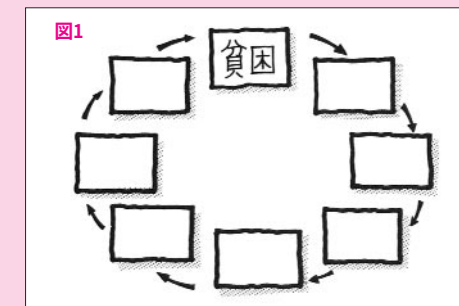
貧困はどこから

『ユニセフの開発のための教育』 P17～18)

貧困の問題を例に取りながら、問題の構造を循環図をつくって発見し、その悪循環を打破する方法を考える。子どもたちを取り巻く問題が個別に存在するのではなく、互いに複雑に関係しあっていることや、ユニセフの活動がこれらの状況を改善するようすを理解できるアクティビティ。2～5人程度のグループで。



- ①左の各カードを、因果関係でつながるように、グループで話し合いながら円形に並べる。（図1を参照）
- ②この因果関係を断ち切る方法をグループで話し合う。このとき、ユニセフがやっている活動をカードにして、どこを断ち切るための活動が考えながら円の中においてみる。
- ③気付いたことを全体で話し合う。



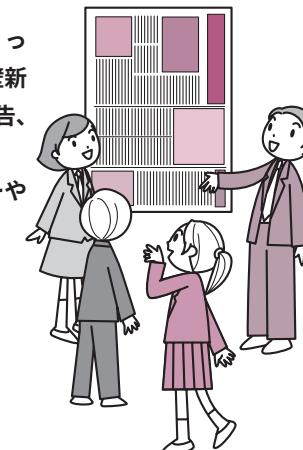
STEP-3 ユニセフミュージアムをつくる

- 調べたことを発表する場を設定する。プレゼンテーションの方法を考え、資料をまとめる。可能であれば、全校児童・生徒、保護者、地域の人びとを包含した行事を企画する。
- このあとに掲載されている個別のテーマによる活動のまとめもこうしたミュージアムで発表することができる。

発表の方法

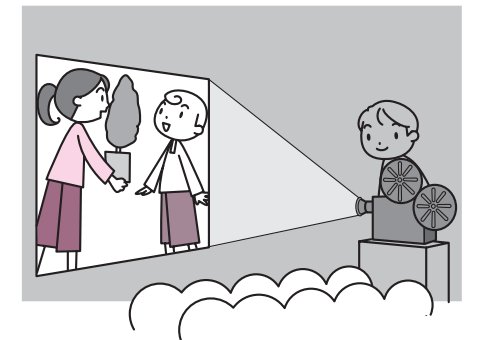
展示

- 調べたこと、つくったものの展示（壁新聞、詩、絵画、広告、旗…）
- ユニセフポスターや資料



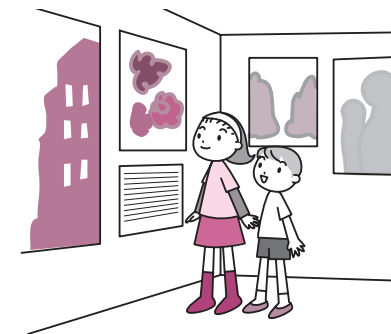
上映・上演

- つくったビデオやユニセフビデオの上映
- つくった歌や芝居などの上演



参加者とのコミュニケーション

- ミュージアムを訪れた人びととの対話
- 参加者をまじえたパネルディスカッションやポスタートークなど
- クイズ・体験ゲームコーナー



協力活動

- ユニセフ募金活動、ユニセフ支援バザー・フリーマーケットの開催など



ひとことメモ

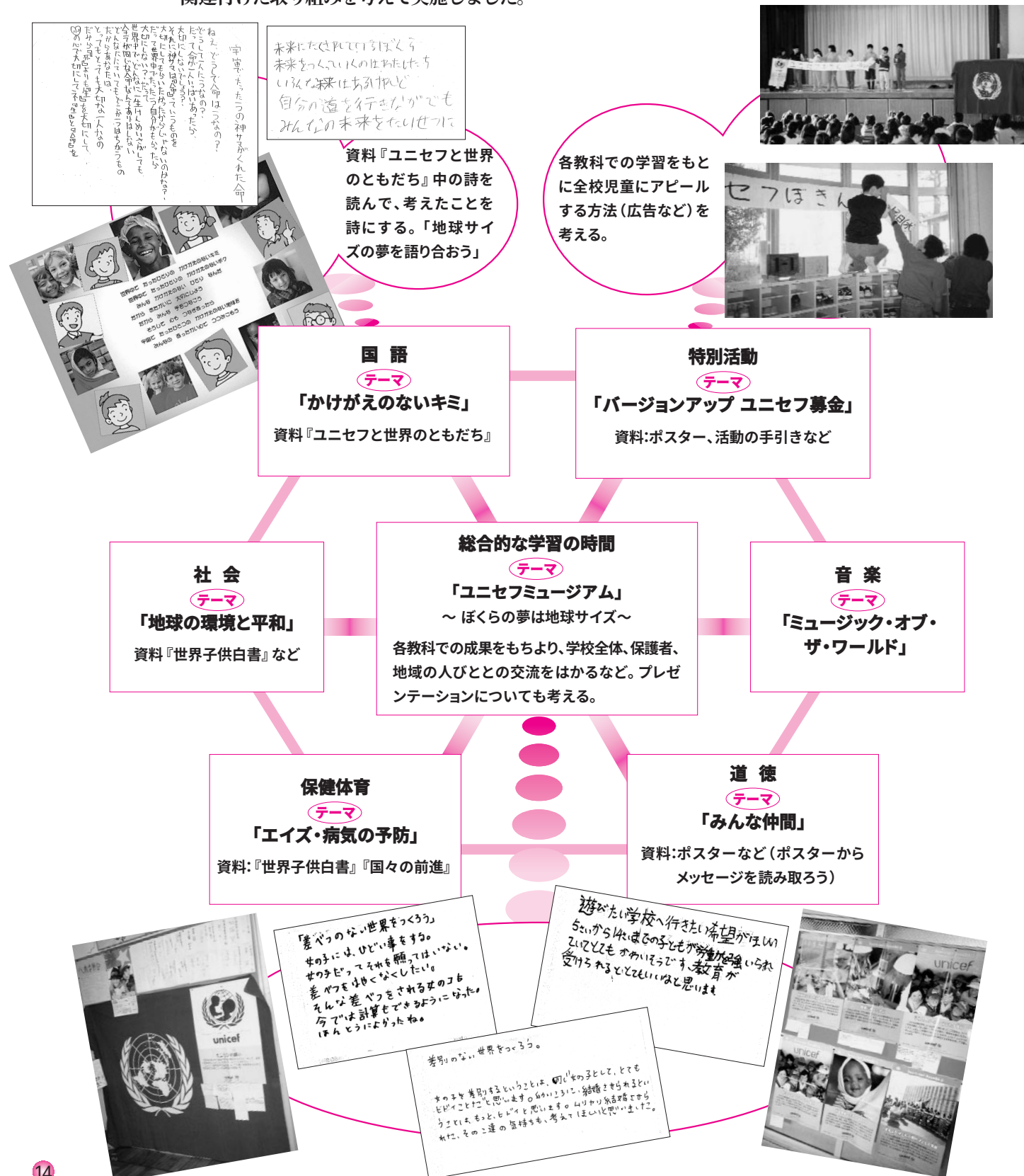
ポスタートーク

ユニセフのさまざまなポスターの下に、自由に意見や感想を書き込んでいく活動。情報を発信するとともに、いろいろな人の意見を共有できる方法です。ポスター以外の展示物でも実施できます。ユニセフが発行しているポスター資料については巻末の資料案内を参照。



実践事例

杉並区立和泉小学校（東京）では、ユニセフをテーマに「総合的な学習の時間」と各教科を関連付けた取り組みを考えて実施しました。



活動展開例

2 人・水・くらし—ユニセフのデータから考えよう

STEP-1 問題提起：“どこにでも水道や安全な水があるだろうか？”

- 『世界子供白書』の各国の保健や水に関するデータを活用する。(安全な水を手に入れられる割合の高い国と低い国を世界地図上で色分けするなど)
- 『国々の前進』などのパンフレット資料にある水と衛生に関する記事を読む。
- ビデオを視聴する。

表 3: 保健指標

	5 歳未満児の 死亡率 の順位	改善 利用	改善された水源を 利用する人の比率 (%)			適切な衛生施設を 利用する人の比率 (%)		
			1999			1999		
			全国	都市	農村	全国	都市	農村
5 歳未満児の 死亡率 の順位			175	-	-	-	-	-
全国			28	70	73	55	21	25
			60	62	80	53	37	41
アフガニスタン	4	13	119	76	89	61	99	99
アルバニア	91	-	175	-	-	-	-	-
アルジェリア	87	94	48	64	87	49	63	64
アンドラ	161	100	161	-	-	-	-	-
アンゴラ	2	38	110	94	97	93	97	96
アンテングア・バーブダ	133	91	68	92	97	88	85	98
アルゼンチン	123	79	17	48	72	36	58	94
アルメニア	101	84	12	49	29	55	47	88
オーストラリア	175	100	58	94	98	91	87	93
オーストリア	175	100	33	46	49	45	28	50
アゼルバイジャン	81	-	-	-	-	-	-	-
			83	90	97	82	77	94
			151	99	100	98	99	100

『世界子供白書』

『国々の前進 2000』

STEP-2 「水」を取り巻く現状についてテーマを決め、個別追究

- 国際理解の分野として……………開発途上国の抱える課題
安全な水を手に入れる苦労、水くみ労働、安全でない水を使う環境がもたらす被害など
- 環境の分野として……………自分たちの水の利用と世界の水事情
- 健康・地域学習の分野として…生きるために必要な水、上下水道、水質汚染

STEP-3 各自の発表

- 各自の研究を発表する。各発表からさらにテーマをしぼって追究活動を続ける。
- 身近な水道施設を訪問するなどして、水に関わる人びとの声を聞いてみる。
- 「水を守るための＊項目」などを策定することを目的に、世界の水や身近な水を守るためにできること、努力しなければならないこと、をまとめてみる。自分が実際にその項目を実行できたらポイントをつけるようなシートをつくってみてもよい。

活動展開例

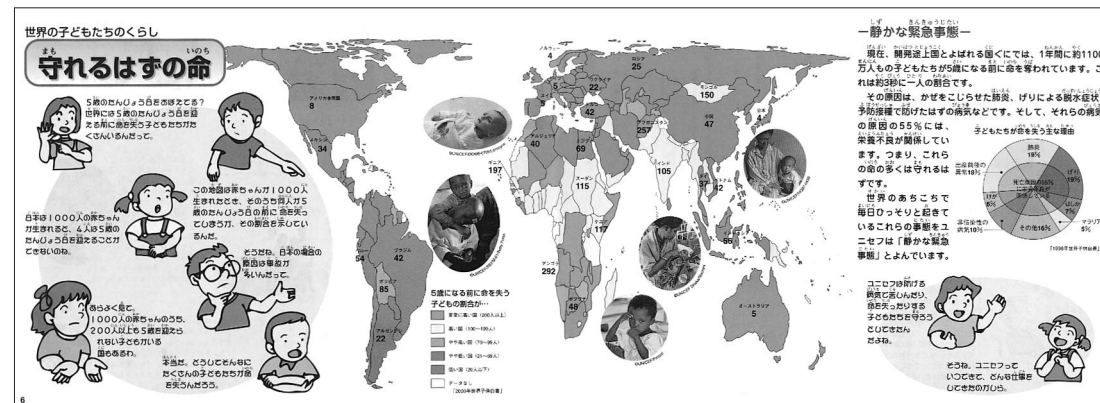
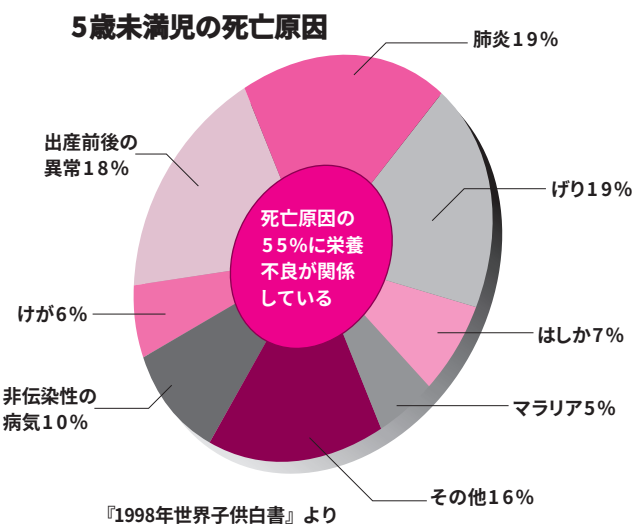
3 5歳の誕生日を迎えられない子どもたち—人間の基本的ニーズと人権・子どもの権利について考えよう

STEP-1 問題提起：“5歳の誕生日を覚えていますか？どのように大きくなってきましたか？”

- 現在、3秒にひとりの割合で、5歳を迎える前の子どもたちが亡くなっている事実を知らせる。（ユニセフのビデオや資料を使用）
- 『世界子供白書』のデータをもとに、世界地図の白地図を用い、5歳未満児の死亡率の度合いに応じて各国を色分けした地図を作成し、気付いたことを話し合う。割合の高い国と低い国をそれぞれサンプリングして各国の状況や特徴についてまとめる。

STEP-2 人間の基本的ニーズとは…？

- 子どもたちが亡くなる原因について調べる。
- 自分たちはどのようにして健やかに成長してこられたのかを振り返り、表を作成する。その中から、子どもが生まれてから健やかに成長するために必要なものを選び出し、全体でまとめてみる。（人間の基本的ニーズについて導入）
- 実際にこれらの基本的ニーズが満たされなかった場合のことを考えたり、現在基本的ニーズが満たされていない子どもたちの状況について調べたりしてみる。
- 子どもたちの命や健やかな成長を守ろうとしているユニセフの活動を調べ、その活動がどのような意義を持つのかまとめてみる。



STEP-3 「子どもの権利条約」に照らしあわせてみよう

- STEP-2で挙げた基本的ニーズについて、法律で定めたものがないかどうか調べてみる。特に「子どもの権利条約」をもとに、自分たちが選び出した基本的ニーズについて触れている条文がないか調べてみる。
- その他の「子どもの権利条約」の条文が提示しているものについて考える。
- 活動全体を振り返って、自分たちに必要なものや権利、それに伴う責任などについてよく考えたり話し合ったりしながら、自分たちの状況に合わせた「〇〇学校版 子どもの権利条約」をつくってみる。
- 子どもの基本的ニーズを満たし、「子どもの権利」を守るためにどのような活動が重要か、自分たちにもできる活動があるかどうか考えて、実施する。

ひとことメモ

「子どもの権利条約」

すでに191の国と地域が締結しているこの条約は、人権や社会正義に対する普遍的な価値観を学べる貴重な教材です。「子どもの権利条約」を使えば、多様な活動が可能です。『ユニセフの開発のための教育』や『わたしの権利みんなの権利』にも「子どもの権利条約」を活用したアクティビティが掲載されています。（P32 資料ページ参照）

世界の子どもたちの状況について考えるときにも、彼らはどのような権利が守られていないのか、どのような権利を守れば健やかに成長していくことができるのか、など「子どもの権利条約」は確実な視点、考え方の基準を提供してくれます。

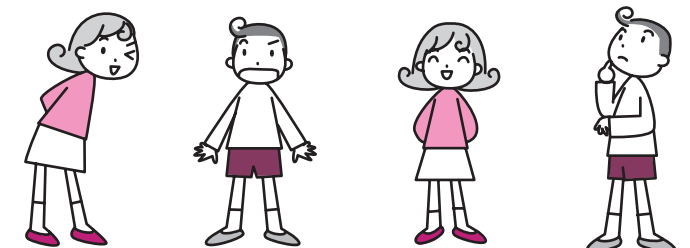
また、「ほしいもの」と「必要なもの」とを選び出しながら、生きていくために「必要なもの」が権利であることを認識させるアクティビティや、各権利に対してどのような責任が伴うかを考えさせるアクティビティなど、発達段階に応じたアクティビティを工夫することによって、身近なものとして活用することができます。

ひとことメモ

統計活用の可能性

ユニセフが毎年発行している『世界子供白書』には、世界各国の5歳未満児の死亡率、成人の識字率、小学校就学率、5歳未満の栄養不良児の比率、安全な水／衛生施設を利用できる人の比率、人口、出生率、その他の経済指標など、さまざまな統計が出ています。これらをうまく利用すれば、さまざまな世界のようすが見えてきます。

たとえば、いくつかの指標を選んで、その比率に応じて色分けした世界地図を作成してみると、どの地域がどのような課題を抱えていることが多いかがわかります。アジア地域などに限って、いくつかの指標を視覚的にわかるように書き込んで比較してみる、いくつかの指標を選んで相関図やグラフをつくってみる、など実際に活動を行ってみると、無機質な数字も生き生きとその姿をあらわしてくるのです。



活動展開例

4 子どもと教育—身近な学校のことから世界を見てみよう

STEP-1 問題提起: “すべての子どもは学校に行っている…わけではないの?”

- きっかけとしてユニセフの教育に関するポスターを使用。意見や感想を求める。
- 世界の子どもたちと学校について、『世界子供白書』の統計から各国の就学率などを調べ発表する。
- 子どもたちが学校に行けない理由を調べ、発表する。



ポスターセット「ユニセフってなあに」より

STEP-2 学校に行くことの意義を考える

- 学校に行けなかったらどうだったか考えてみる。
例 読み書きがまったくできない状況について疑似体験してみる。
 * あるグループにだけわかる記号で書かれたポスターやお店の正札、看板、注意書きなどを
 つくりだして、その記号の意味のわからない人が買い物をしたり、生活したりできるかど
 うかをロールプレイングしてみるなど
- 世界各国のさまざまな問題について、子どもたちが教育を受けられることで解決していけ
 そうなものはないか、ケーススタディやシミュレーションをしてみる。
例 ある問題（例えばA国の森林伐採問題やC国の人口増加問題）について、その問題の原因や背
 景を理解した上で、どこでどのような教育を徹底すれば、その問題が解決の方向へ向かうか、
 シナリオを考えたり、シミュレーションしてみたりする。
- その他、教育にまつわる課題について個別追究する。

STEP-3 「すべての子どもに教育を」

- 標記のテーマに基づき、どんなことが子どもたちが学校に行けることにつながるか、グルー
 プ討論などで意見を出し合う。
- 発展的活動として、例えば“学校推進委員会”をつくって「行動」を組織する仕組みをつ
 くってみる。（情報を集める、提言をまとめる、講演会を開く、ユニセフ募金をするなど）

活動展開例

5 エイズ～病気の予防と世界の現状—世界の大きな課題について考えよう

STEP-1 問題提起: “アフリカで最大の死因となっている病気は何でしょう?”

- エイズという病気について言及し、この病
 気はどのようなものか、各自で調べたり、
 共通の資料を読んだりする。



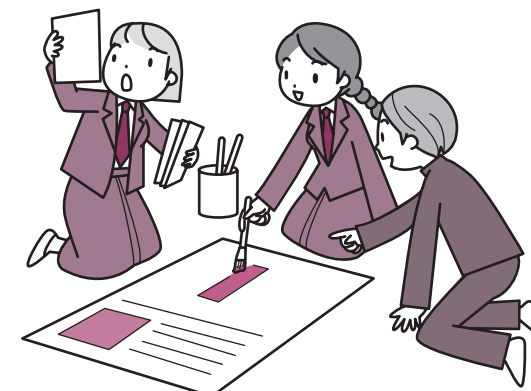
『国々の前進2000』

STEP-2 調べたことなどを発表する

- エイズがもたらすさまざまな問題につい
 てさらに追究し、調べたことを発表する。
- 日本の状況や自分たちとの関係について
 も理解を深める。

STEP-3 情報発信する／エイズの拡大を防ぐための行動

- エイズの予防には情報や教育が不可欠な
 ことから、これまでの活動をもとに自分
 たちから「伝える／呼びかける」活動を行
 う。たとえば、広告の製作、学校行事
 での発表、メディアや有力者への働きか
 けなど。



ひとことメモ

テーマを発展させて

エイズは、病気やウイルス、予防法に対する無知および情報／教育の欠如が、その拡大に拍車をかけています。HIVウイルス感染者やエイズ患者に対する偏見、差別、迫害などもそこから発生しています。これらの現実をきっかけとして、さまざまな探究テーマを導き出すことが可能です。

たとえば、

◎ 教育の役割

- 情報を得るために必要な能力（識字など）
- 教育を受けた人びとが持つ社会を変えていく力

◎ 偏見や差別を生み出すもの

- ステレオタイプや偏見を導く原因や情報の分析
- 偏見や差別が引き起こすもの



©UNICEF



©UNICEF

活動展開例

6 どうしてユニセフ募金？—インターネットで調べてみよう

STEP-1 問題提起：“いったい何のために募金するんだろう？”

- 学校で定期的に行われるユニセフ募金活動をきっかけに、標記の質問に対する答えについてグループディスカッションなどを行う。
- グループディスカッションの中で出てきた意見の中から、さらに追究していけるように細かな問題提起を行っていく。例えば、「困っている子どもたちを救うため」であったら、どのような困っている子どもたちがいるのだろうか？、「自己満足のため」であったら、どうして募金が自己満足につながるのだろうか？といったように。

STEP-2 調べる

- さまざまな問題提起の中から、個人または全体で追究すべきテーマを選び、インターネットからそれを調べてみる。
- 例えば、紛争に巻き込まれている子どもたちをテーマに、ユニセフ協会のホームページ (<http://www.unicef.or.jp>) を検索する。その中から、世界の子どもたちを取りあげたストーリーがたくさん掲載されているページ（「世界の子どもたちは今」「ユニセフ子ども物語」など）を読み、もっとも印象に残ったページをプリントアウトする。同じページをプリントアウトしたり、同じテーマを選んだ児童・生徒同士でグループをつくり、各情報の背景についてより詳しく調べて意見交換する。



※作成中のためホームページのデザインは変更になることがあります。

STEP-3 グループでの話し合い、発表

- 各自、各グループで調べたことを全体に発表する。
- さらに関連のホームページを調べたり、調べた資料館や関連施設、関係者を訪問して、インタビューを行うなどの活動に発展させる。

ひとことメモ

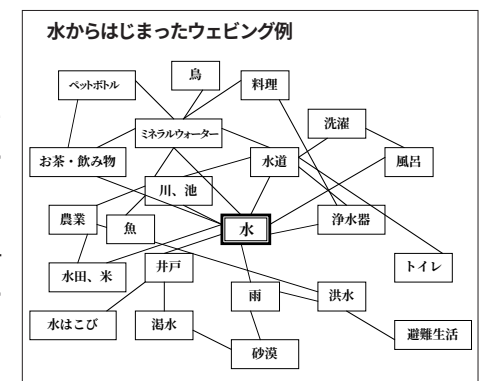
インターネット活用術

近年、学校でのインターネット活用が広がっています。日本ユニセフ協会のホームページからいろいろなことが調べられますが、特定の国やテーマを深く調べたいといった場合には、さまざまなページの検索が必要になります。ここで大切になるのが、インターネット上の膨大な情報からどのように必要な情報を見つけるか、ということです。

検索力を身につけよう—キーワードを見つける力

検索する際に必要になるのが、キーワードです。活動のテーマについて事前に自由に意見を出し合っ、テーマに関するさまざまな「言葉」を見つけておくと、多方面からの検索が可能になります。テーマから派生する言葉を見つけるには、ウェビングと呼ばれる手法などが有効です。

＊**ウェビング**：ひとつの言葉からイメージする言葉をクモの巣状にかきだしていく方法。グループで行うと、多様な言葉が得られる。

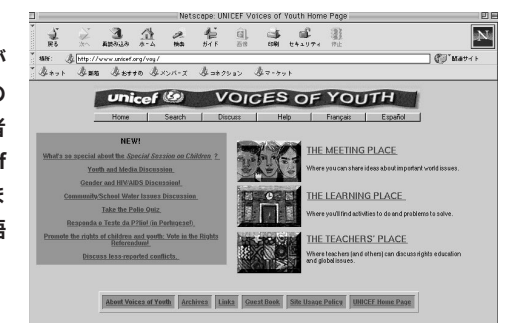


リンクリストを活用しよう

ホームページの多くには、その機関と関連のあるさまざまなホームページとリンクがはられています。そうしたリンクリストからネットサーフィンしてみることも効果的な方法です。

コミュニケーションツールとして活用しよう

ホームページの中には、アクセスした人同士が意見交換をしたり、質問を書き込めたりするものもあります。ユニセフ本部にも子どもたちや若者が、学んだり、意見を交換できる "Voices of Youth" (<http://www.unicef.org/voyn>) があります。（使用言語は英語、フランス語、スペイン語です。）



活動展開例

7 消えゆく世界の森—ユニセフのアクティビティを利用しながら考えよう

この項では、各段階でアクティビティを利用しています。アクティビティ活用は、クラスの全員が参加しながら課題探求するひとつの手法です。各アクティビティの詳細については『ユニセフの開発のための教育』をご参照ください。

STEP-1 提起：“わたしたちの身近にある「世界の森」をさがしてみよう”

アクティビティ これはどこからきたの？（『ユニセフの開発のための教育』P27）

身近にある木材を原料とした製品をさがし、どこからきたのかを調べて世界地図上に書き込んでみる。

アクティビティ どんな種類のニュース？（『ユニセフの開発のための教育』P38～39）

最初のアクティビティであがった国に関する記事を新聞から集め、それらの国の森林の状況を含めた情報収集をする。また、記事から見えてくるそれらの国に対するイメージを話し合う。

STEP-2 森林のもつ機能や役割について調べよう

アクティビティ 生命のあみ（『ユニセフの開発のための教育』P13～16）

森の生態系について、カードゲームをしながら生き物や植物のつながりをあらわす。

やり方

参加者は円陣を組んで座り、ひとりに1枚「生き物カード」が配られる。「生き物カード」には、森林の中で生きる生き物についての記述がある。ひとりひとりが自分のカードを読み上げながら、その生き物と関係のある「生き物カード」を持っている人と色ひもで腰と腰をつなぎあっていく。すべてのカードが終わったところには円陣の中には複雑に絡まりあった網ができあがっている。



- 森林の現状について個別追究を行う。

テーマ例 森林のもつ機能（環境への貢献）、森林破壊の背景、日本が多くの木材を輸入している背景、開発途上国における森林資源の役割（燃料としての利用、現金収入のみち、子どもの薪拾い労働…）

STEP-3 自分たちにできることを考えよう

アクティビティ 働く力の分析（『ユニセフの開発のための教育』P87～88）

破壊されてゆく森林や環境を守るために、自分たちに何ができるか、を分析する。

やり方

大きなテーマに対して、自分たちができそうなことを挙げ、「できそうな度合い」を示していく。一番「できそうな度合い」が高いものを次のテーマにして、同じ活動を繰り返し、できることを身近なところまで近づけてゆく。

- 出てきた意見をもとに実践活動を行う。

（例）「地球環境を守るために」
（できそうな度合い）

① 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。	② 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。
③ 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。	④ 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。
⑤ 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。	⑥ 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。
⑦ 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。	⑧ 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。
⑨ 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。	⑩ 地球環境を守るために、自分たちができることを考える。

以下同様、⑨まで書く

（例）「使う紙の量を減らす」
（できそうな度合い）

① 使う紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。	② 使う紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。
③ 使う紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。	④ 使う紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。
⑤ 使う紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。	⑥ 使う紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。
⑦ 使う紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。	⑧ 使う紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。
⑨ 使う紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。	⑩ 使う紙の量を減らすために、自分たちができることを考える。

以下同様、⑨まで書く

活用! アクティビティ

アクティビティ実践の特徴は、正解や結論がひとつではない、ということです。多様な意見が出されるように促すことで、その後の発展性がうまれてきます。各活動を終えたあと、どのようなことに気づき、どのようなことを感じ、考えたか、ということについてじっくり振り返りの時間をもつことが大切です。

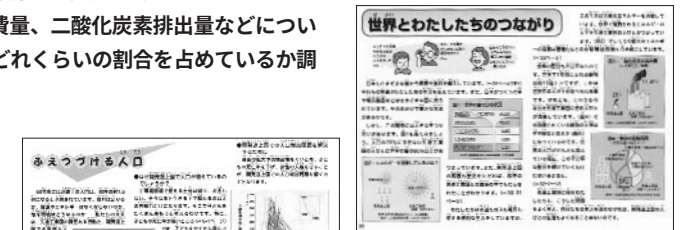
活動展開例

8 急速に人口増加する世界—さまざまな要因が絡まり合う問題について考えてみよう

STEP-1 問題提起：“この世界に人はどれくらいいるの？”

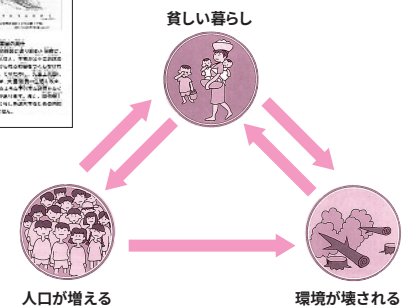
- 「人口」を調べる。…『世界子供白書』『国勢図絵』などの統計資料から
 - ・自分たちの住む市町村、都道府県、日本、世界の人口を調べてみる
 - ・人口の多い国、人口増加率が3%以上の国をそれぞれ世界地図上で示してみる
 - ・何ヶ国かサンプルを選んで、各国の各年齢別人口構成を調べてみる
- 世界の人口、エネルギー消費量、穀物消費量、二酸化炭素排出量などについて、開発途上国と先進工業国でそれぞれどれくらいの割合を占めているか調べてみる。

- 調べてわかったことを話し合う。



STEP-2 人口増加がもたらす危機について考える

- 「貧困」と「人口増加」と「環境破壊」の悪循環について考え、実際にどのような問題が発生しているか、個別に調べてみる。
- 人口増加の要因について人口増加率の高い国を選んでその国の状況（女性や子どもに焦点ををぼると新しい発見がある）を調べてみる。
- 調べたことを発表し、人口増加がもたらす危機とその要因についてまとめる。

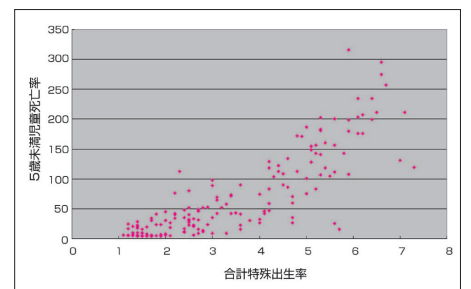


ひとことメモ

データが示す人口増加の要因

乳幼児死亡率が高いことと人口増加率が高いことは密接な関係があります。『世界子供白書』のデータをもとにして、以下のようなグラフをつくってみましょう。5歳未満死亡率が低いほど、合計特殊出生率（ひとりの女性が一生に産む子どもの数）も低くなっていく傾向がわかります。つまり、子どもの死亡率を下げるのが人口抑制にもつながるのです。

また女性の識字率と乳幼児死亡率や人口増加率などの相関関係を調べても興味深いことがわかります。



STEP-3 人口抑制策と自分たちにできることを考える

- 開発途上国における人口抑制政策などを調べる。
- エネルギーや穀物消費量の地域的不均衡から、先進工業国の人びと（わたしたち）の暮らし方について考える。
- 人口問題を切り口にユニセフやその他の機関の活動がどのような効果をもたらすかその意義を考える。

9 共に生きる世界—ユニセフを通じて平和や人権について考えよう

実践事例

小田原市立橘中学校(神奈川)では、共生をテーマに、ユニセフを活用して段階を踏まえた活動を実施しました。

STEP-1 知る：単元「ユニセフの活動について知ろう！」

生徒の手によるユニセフ勉強会の実施

ユニセフ活動に目を向けることは世界平和について知る手だてのひとつである。まず知ること、何ができるか考えること、できることから行動することというステップを考えた。

まず、生徒会本部役員を中心としてインターネットでユニセフのホームページを検索し、その資料を読み、何を伝えたいかを討議した。伝えたい内容を生徒自身が資料として作成し、各学級委員が集まる評議委員会で伝え、評議委員会での勉強会を終えた学級委員が各学級で勉強したことを伝えるという段階を踏んだ。ここでは、学んだ子ども自身が情報の発信者となる。受動的な立場から能動的な立場への変化が、考える段階へのステップとなった。

○新学習指導要領による学校での目標

- ・豊かな人間性や社会性を身につけ、国際社会、21世紀に生きる力をつけよう。
- ・自ら学び、自ら考える力をつけよう。また、話し合う力をつけよう。
- ・生徒会によるユニセフ活動について理解を深めよう。

○生徒会活動としてのユニセフ活動の展開

6月中旬

生徒会本部による
ユニセフ勉強会



6月下旬

生徒会本部による
学習資料の作成



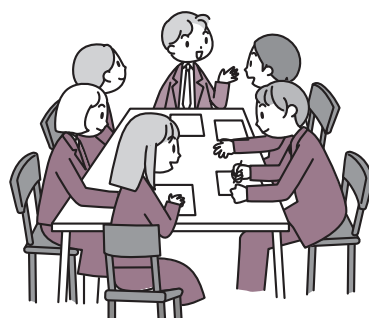
7月上旬

評議委員会(学級委員会)
によるユニセフ勉強会



7月中旬

学級でのユニセフ勉強会
(学級委員を中心としたクラス
勉強会)



みんなの声から

ユニセフ勉強会を終えて

- ・みんな静かに聞いてくれた。ユニセフのことがわかったみたいで意見を出してくれた。(1年)
- ・みんなそれぞれ考えてくれた。ユニセフについて知らなかったことをいろいろ教えてくれてユニセフの大切さがわかった。(2年)
- ・みんなの意識が変わったと思う。自分でできることを考えるようになった。(3年)

4 ユニセフを活用した活動展開例

○学級でのユニセフ勉強会展開例

	生徒の学習活動	教師の働きかけ・支援
知る	「ユニセフ」ってなあに？ ユニセフについて知っていることを挙げてみる。 ユニセフの活動について説明する。 ○×クイズを試してみる。	学級委員を中心にクラス勉強会であることを知らせる。 学級委員はユニセフについて評議委員会で勉強していることを知らせ、資料を配る。
考える	「ユニセフ」についてわかったこと・考えたこと ユニセフについて知ったこと、わかったことについて意見を出す。 考えたことを発表する。	意見が出るように支援する。 班ごとに話し合ってもよい。
行動する	今、わたしたちにできること わたしたちにできることをまとめる。 感想文をまとめる。	学級の意見としてまとめられる。 (ユニセフ活動について) 知るということ自体、すでに行動している、というまとめの方向も可。

STEP-2 考える：単元「人権について一緒に考えよう」

生徒の手によるパネルディスカッション

世界には子どもの権利、基本的な人権としての「生きる権利」さえ奪われている子どもたちがいる。そうした現実を共に考えることを目的として、全校集会を持った。生徒会本部役員は事前にビデオによる学習会を行い、ビデオを題材にパネルディスカッション形式で意見を述べることにした。



○新学習指導要領による学校での活動内容

- ・生徒の教養や情操の向上のための活動
- ・好ましい人間関係を深めるための活動
- ・社会参加等に関する活動

○活動計画

10月下旬	生徒会本部	ビデオを鑑賞し、人権の問題について学習する。
11月上旬	生徒会本部	生徒集会の準備、進行の細案づくり
11月中旬	本部役員会 パネラー	パネルディスカッションの準備 パネラーの準備、意見会の準備
11月下旬	生徒会本部 学級の時間	生徒会機関誌による生徒集会の案内 ビデオの内容と「子どもの権利条約」について
11月末	生徒集会(45分) 学級の時間(20分)	ビデオシンポジウム 生徒集会の感想をまとめる。

みんなの声から

パネルディスカッションを終えて

- ・徹底して人権を擁護したAさんに賛成。次の世代を生きる子どもたちを殺したり、痛めつけたりしないでほしい。
- ・おとなたちが守られるべき子どもたちを虐待したり、殺したりするのは許されないことだと思います。しかし、犯罪を防止する意見のBさんのような意見を聞くと、確かに少年犯罪は増えているので甘やかしていいのかは難しい問題だと思いました。

STEP-3 行動する：単元「できることから始めよう」

人権について考えてもらいたい、という願いから生徒会本部役員による人権の啓発劇をつくり、学習発表会で演じた。

また、生徒会本部役員と有志ボランティアによるユニセフ募金を全校で実施した。

活動展開例

10 違っているから素晴らしい—多様なもの・考え方・人の共生を考えよう

STEP-1 問題提起：“違っているものを見つけよう”

- さまざまな「違い」について導入する。
例) 世界の人びとの暮らしや文化の違いについて、ユニセフのビデオを視聴など
- 「違い」について調べたい課題を出し合い、その中から自分の追究課題、何をどのように調べるかを考え、決める。(どのような違いがあるか、違いがもたらすものなど)
課題例) いろいろな国の言葉・学校・料理・遊び・職業・はやっているもの・服装、戦争と平和、男の子と女の子、宗教、人種、民族、政治経済の仕組み、歴史、自分と他の人、障害の有無、社会的地位、財産

STEP-2 「違い」がもたらすものについて考える

- 各自の研究発表を行い、「違い」についてのさまざまな意見を聞く。
- 違っていることが素晴らしい結果を生み出しているケースや、「違い」のために問題や争いが起きているケースを選び出して、それらの背景についてさらに個別に追究する。
- 「差別」について考える。

STEP-3 「違い」と共に生きる世界をつくろう

- 各自の研究発表を行う。
- 発表を基に「違い」と共に生きる世界、「違い」をプラスにしていける世界とはどのようなものか、グループで意見を出し合って、表現する。
- 身近なところで「違い」のために起こっている問題があれば、解決の方法を考え実施する。離れた世界で起こっている問題については、自分たちでできることを考え、実施する。

活用! アクティビティ

意見や考え方の違いが生まれる背景のひとつにある“情報の受け取り方”について、以下のようなアクティビティが活用できます。

2つの報道

(『ユニセフの開発のための教育』P40～41)

1. ひとつのできごとについて、異なる視点から書かれた記事を読み、それらが与える印象の違いや、自分の考えがどうなったか、について話し合う。
2. あるできごとをテーマに、異なるふたつの視点からそれぞれ記事を書いてみて、照らし合わせ、気付いたこと、考えたことを話し合う。

ひとことメモ

ジェンダーも多様性を考えるテーマのひとつです

ユニセフの主要な活動のひとつに女性への支援があります。世界には女性の就学率や識字率、女の子の出生率などが極端に低い国や地域があります。このような統計は女性への差別が根強く残っていることを示しており、それが子どもの発達にも深刻な影響を与えています。ユニセフの資料には、女性の直面している問題とその影響について触れられたものが多くあります。問題について認識した後、男女の平等や男女の役割分担などについて考えることもひとつの方向性となりうるでしょう。

活動展開例

11 将来設計図—アクティビティから自分の将来、地球の未来を考えよう

STEP-1 問題提起：“どんな職業に就いてみたい？”

- 職業について具体的なイメージをもつ。
- 次のようなアクティビティを行ってみる。

アクティビティ 仕事と将来 (『ユニセフの開発のための教育』P85～86)

新聞の求人欄や求人雑誌を用いて、今どのような職業があるのかを調べる。

その中から、20年前にはなかったと思われる職業は何か、20年後に必要とされる職業はどのようなものか、話し合う。

- ユニセフの統計資料などを活用して世界の実情を認識し、現在世界でどのような仕事が行われているか考えてみる。

STEP-2 体験学習 インタビュー：働いている人に聞いてみよう

- 地域の働いている人や職場訪問で出会った人に各自のテーマに基づいてインタビューを行う。修学旅行などを活用してもよい。

アクティビティ 変化についてのインタビュー (『ユニセフの開発のための教育』P84)

さまざまなよい「変化」をもたらした力について、その変化に関わった人びとにインタビューをする。

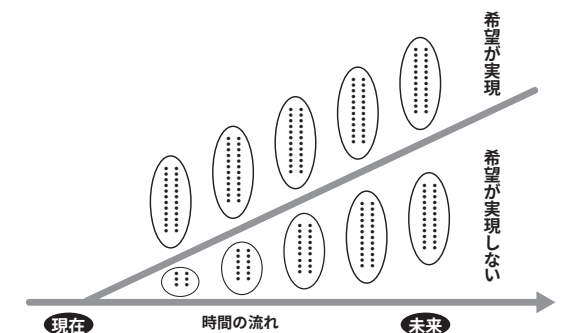
STEP-3 将来設計図をつくろう

- 職業という観点から集めた情報や考え方をもとに、次のようなアクティビティを行い自分の将来設計図をつくってみる。

アクティビティ 危機？それともチャンス？

(『ユニセフの開発のための教育』P95)

自分の将来をテーマに、ひとりひとりの理想を追った人生設計図(タイムライン)を作成する。タイムラインは横にY字型になるように描き、上のラインには将来の希望が現実化していくもの、下のラインには希望が実現しないものを想定して作成する。完成したタイムラインはプレゼンテーションにも活用が可能。



- 将来の地球について、現在よりもよいものになっているとしたら、どのような改善があったからか、その改善のために自分はどのような貢献ができ、またよくなった地球で自分はどのように働いたり、暮らしたりしているか、などについて考えて発表する。上記のアクティビティをこのテーマに応用してもよい。

活動展開例

12 写真から考える世界のできごと—ユニセフの広告から考えよう

STEP-1 問題提起：「実はわたしたち○○○」

- ユニセフの新聞広告を例にとる。解説を見せずにキャッチコピーの全体、または一部分を伏せて、そこに入る言葉を考え、全員で発表しあう。
- 正解を知らせ、その広告が伝えようとしている課題についての導入をはかる。(各種資料、ビデオ等の活用)



STEP-2 個別に追究課題を決め、活動する

- たとえばヨード欠乏症なら、世界の栄養事情や、自分たちの栄養のこと、栄養不良の原因ともたらされる被害について個別追究する。

STEP-3 テーマをもとに発表活動を行う

実践事例

川崎市立川崎総合科学高等学校(神奈川)では、新聞記事や掲載写真を活用した活動を実施しました。

- ① 記事の写真部分のみをコピーして全員に配布し、写真からわかることをできるだけたくさんあげてもらおう。



1997年1月31日 朝日新聞

あがった意見

- 少年の後ろに旗がある。多分国連の旗。
- 何かの撮影中
- イスがあるのに立っている
- 少年がずしそうな格好をしている
- 黒人の少年と黒人のカメラマン
- 撮影場所は崩れた家の中。壁も崩れている
- 少年の顔つきが真剣である。シビアっぽい撮影?

- ② 新聞の記事であることを伝え、グループで写真に見出しと説明文を考える。→発表

あがった見出し例

- 戦争で肉親を失った少年
- ユニセフ募金 活動開始
- 肉親を捜し求めて
- さしのべられる手
- アフリカの少年、母を求めて三千里

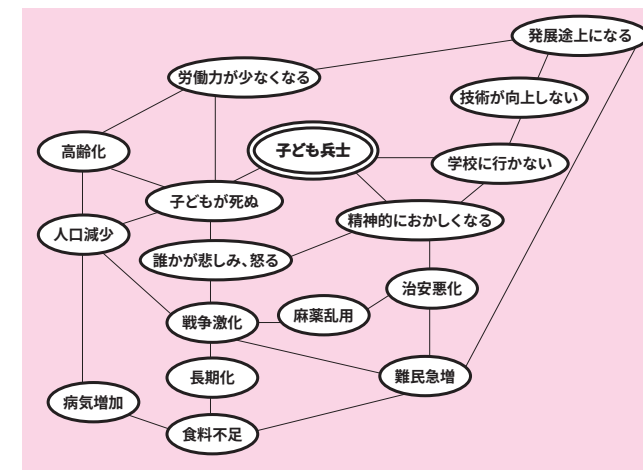
4 ユニセフを活用した活動展開例

- ③ 実際の見出しと説明文を見せ、最初に感じた言葉を表す。

例：あぜん！、自分が情けない、考えが浅かった、かわいそう…

- ④ グループで自分たちの見出しと違って理由を話し合ってみる。

- ⑤ 少年兵についてのビデオを視聴し、そこからわかった問題点をグループで書き出す。→発表



生徒が書き出した例

- ⑥ 出てきた問題点を分類し、タイトルをつける。

例：教育、食糧、病気、家族、地雷…

- ⑦ 各自が個別追究テーマを決め、学習活動を行う。

例：「教育」から「学校に行けない子どもたちの現状」など

- ⑧ 調べたことを発表

発表形式には、ロールプレイング、劇、絵、紙芝居、壁新聞、プリント、OHP など

- ⑨ 活動評価

振り返りシートを用意し、自分の活動と仲間の活動を評価する。

評価の観点には

- テーマと発表内容の整合性
- 調べの深さ
- 調べ方の工夫
- 発表形式
- プレゼンテーションの方法とわかりやすさ
- 質問への応答
- まだわからないことがおさえられているかどうか

などを盛り込んだ。

振り返りの中から「少年兵をなくすにはどうしたらよいか」などの話し合いをもった。

ひとことメモ

写真や記事を選ぶポイント

新聞、写真集、ポスターなどさまざまな資料から活動に活用できる素材を見つけることができます。活動に合わせて以下のようなポイントを考えてみてはいかがでしょうか。

- 1 多くの情報が読み取れる…さまざまなモノがうつっているもの
- 2 発展性がある…そこからさまざまな課題を見つけ出すことができるもの
- 3 意外性がある…固定観念やステレオタイプを打ち破るようなもの
- 4 繰り返し使える…活動の導入としてだけでなく、活動の流れの途中でも使えるようなもの



©UNICEF/Fran Antmann



©UNICEF/Horner

5 これを活用！ユニセフ資料案内

ここに掲載されている各種資料のご請求は、日本ユニセフ協会 学校事業部まで。（裏表紙の連絡先をご参照ください。）また、日本ユニセフ協会ホームページからも資料請求することができます。（ホームページの場合、発送までに1、2週間かかることがありますのでご注意ください。）

なお、資料実費と送料をご負担いただいておりますので、あらかじめご了承ください。

世界の子どもたちの状況とその課題についての情報（中高生以上）

世界子供白書

A4版 パンフレット/1冊までは送料を含め無料

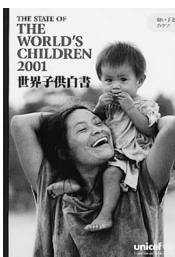
毎年12月にユニセフが発行している世界の子どもの状況についての年次報告書。毎年のテーマに基づく解説のほか、各国の状況を伝える記事も数多く掲載されています。

また、巻末には子どもに関わる世界各国のさまざまな統計が掲載されていますので、学校での活動にも幅広く活用できます。

2001年版は、乳幼児期のケアを特集しています。子どもの脳は3歳までに飛躍的に発達し、この間の適切な栄養や刺激がその後の発達に大きな影響を及ぼします。その場限りの活動ではなく、子どもの成長を総合的にとらえた活動の重要性が訴えられています。

また2000年版は、子どもの権利条約採択発効10周年を機にこれまでの前進といまだに子ども達を脅かしている主要な問題（紛争、貧困、エイズなど）についての現状を伝えています。

その他、1999年版は教育、1998年版は栄養、1996年版はユニセフの50年のあゆみと紛争下の子どもたちを特集しています。



国々の前進

A4版 パンフレット/1冊までは送料を含め無料

ユニセフの活動分野（保健、栄養、水と衛生、教育、女性支援、子どもの保護、緊急救援など）において、現在注目を集めている問題や、より真剣な取り組みが必要とされている課題について、詳しい解説と各国の状況（統計を含む）が掲載されています。

2000年版は、エイズ、幼児のケア、予防接種の力（ワクチンの新しい課題）、権利を踏みにじられている子どもたち、が取り上げられています。

その他、1999年版には、ポリオとビタミンA、債務問題、エイズ、1998年版には、出生登録、女性、先進工業国の中の貧困、などがテーマに取り上げられています。



ユニセフ年次報告

A4変形版 パンフレット/1冊までは送料を含め無料

ユニセフの活動報告書。世界各地での活動のようすや、ユニセフの収入と支出、国ごとの予算配分、各国政府、民間のユニセフへの拠出額などが報告されています。



ユニセフニュース

A4版/ユニセフ協会会員へのニュースレター

ユニセフ協会の会員を対象に年4回発行されているニュースレターです。新しいユニセフ情報や海外からのレポートなどをお届けしています。（見本をお届けいたします。定期的なお受け取りには会員またはマンスリープレッジへのお申し込みが必要です。）



小学生から読めるユニセフ資料

ユニセフと世界のともだち

B5版 40ページ/学校は6冊まで無料

それ以上は1冊60円

世界の子どもたちの状況、ユニセフの成り立ちやその役割、活動の内容から、現代の世界が抱える課題（貧困、人口増加、環境破壊）、子どもの権利条約にいたるまで幅広く子ども向けに解説しています。調べ学習にも適しています。



地球のともだち ユニセフワークブック

A4版 40ページ/1冊 150 円

※作成中のため、表紙等は変更になることがあります。

「ユニセフ」から導きだされる数々のキーワードをテーマに、地図に色を塗ったり、表やグラフを作成したりといった作業を通じて、子どもたち自身が世界の問題や自分たちができることを考え、発見するワークブック。参加型活動への活用やひとりでの作業も可能です。世界地図シート2枚入り。



ユニセフ手帳

A3二つ折り/無料

ユニセフの活動が1枚のちらしで簡単にわかります。切り込みを入れて折りたたむと8ページのポケットサイズになります。大人数での活動用配布資料などに適しています。



子どもの権利条約 カードブック

B5版/学校は 6冊まで無料

それ以上は1冊60円

「子どもの権利条約」の第1条から第40条までをやさしく要約し、イラストつきのカードにしました。切り離してカード状にすれば、さまざまな使い方を工夫できます。カードの裏面にはその条文の原文（政府公式訳）が印刷されており、本格的な資料としても活用できます。カードを利用した活動例も掲載されています。



ポスター（サイズは52cm×73cm 学校は1枚または1セットまでは無料）

2001年学校向けポスター 「地球市民になろう」



2000年学校向けポスター 「守られているの？ 子どもの権利」



「ぼくたち同じ地球人」



「子どもは戦争の道具じゃない」



このテーマについてはビデオ「子どもと武力紛争」(12分)も貸し出されています。

5 これを活用！ユニセフ資料案内

ポスターセット「ユニセフってなあに」 1998年製作 2000年改訂/10枚1セット



ポスターセット「守られているの？子どもの権利」 2000年製作/10枚1セット



ポスターセット「地球市民になろう」 2001年製作/10枚1セット



先生用ガイドブックなど

ユニセフの開発のための教育

A4版 95ページ/1冊100円

参加型・体験型の活動を通じて「地球市民」としての考え方や態度、能力を養うための指導者向けガイドブックです。相互依存・イメージと認識・社会正義・対立とその解決・変革と未来の5つのグローバルコンセプトに基づいて年齢別のアクティビティ例を紹介しています。応用の幅の広い内容です。(→P12参照)



わたしの権利みんなの権利

A4版 81ページ/1冊100円

「子どもの権利条約」および「権利」や「責任」といった概念について、参加型のアクティビティを通じて学ぶための、指導者向けガイドブック。発達段階や理解度に応じたさまざまなアクティビティ例が紹介されています。



T・NET通信

A4版 8ページ/年3回発行/通信費480円(2年間6回分)

T・NETとはTeachers' Networkの略です。ユニセフを活用して下さる先生方のネットワークを築くことを目的に発行されている、先生対象のニュースレターです。ユニセフにまつわるさまざまなテーマを掘り下げた特集記事や教室の子どもたちへの教材にもなる「ユニセフ子ども物語」、開発のための教育のアクティビティ例や各学校の実践例などをお届けしています。



ユニセフの視聴覚教材

より理解を深めていただいたり、さまざまなテーマの導入にご活用いただける視聴覚教材(ビデオ・パネル・スライド)を貸し出しています。貸し出し機関は全国にあります。お電話でご予約、お申し込みください。

貸し出し機関と貸し出し教材のリストがあります。ご請求ください。



貸し出しおすすめビデオ

ユニセフと地球のともだち (14分)

保健、栄養、水と衛生、教育、子どもの保護、緊急救援の6つを柱としたユニセフの活動について、現地の子どもの声や映像を織り交ぜながら、わかりやすく説明しています。ユニセフや世界の子どもたちについてはじめて触れるときに最適です。



©UNICEF/0156/Lemoyne

世界子供白書

毎年発行される『世界子供白書』のテーマをもとにしています。2001年版(7分)は乳幼児のケア、2000年版(14分)は子どもを脅かす紛争、貧困、エイズなどについて、1999年版(15分)は教育、1998年版(15分)は栄養、1997年版(17分)は児童労働、1996年版(29分)は紛争下の子どもたちとユニセフ50年のあゆみについて、となっています。



世界の12歳 (15分)

日本の12歳の子どもたち4人が、バングラデシュ・ガーナ・クロアチア・オーストラリアの子どもたちを訪ね、異文化に触れ、友情を通して互いの国を理解していくドキュメント。女の子の早婚、児童労働、紛争、多民族問題などの問題についても触れられています。



日本ユニセフ協会 ホームページ (http://www.unicef.or.jp)

日本ユニセフ協会のホームページでもたくさんの情報を得ることができます。2001年春以降、子ども向けページを含め全面リニューアルされる予定です。子ども向けページでは、情報をただ読むだけでなく、さまざまなデータを検索してみたり、グラフを作成してみたり、ゲームを試してみたりしながら、体験的に学べるような構成になります。また、先生向けのページもオープンする予定です。



※作成中のためホームページのデザインは変更になることがあります。



財団法人 日本ユニセフ協会 [日本ユニセフ委員会]

〒163-8688 東京都新宿区大京町31-10 ☎03-3355-3224
http://www.unicef.or.jp
2001年4月1日発行 (TR52000)

当協会は平成13年6月25日に下記へ移転いたします
東京都港区高輪4-6-12